

学校教育自己診断の結果について

このたび、児童・生徒・学生の皆さんや保護者・保証人の皆様には学校教育自己診断にご協力頂き、ありがとうございました。

本校では、学校教育改善の方策を明らかにするため、学校教育自己診断を行い、頂いたご意見を学校運営や教育活動に活かしてきました。

アンケート結果はグラフ化し、質問ごとに、児童・生徒・学生、保護者・保証人、教職員の間にあるギャップを分かりやすく表示して、本校の学校運営や教育活動が児童・生徒・学生、保護者・保証人の皆様のニーズに対応しているかどうかなど、比較、検討しました。この診断により、現在の課題が明らかになり、今後の学校運営や教育活動を見直すきっかけになると考えています。

また、この結果をふまえ、学校協議会委員の方々のご意見もいただき、今後の教育活動をより豊かなものにしていきたいと思えます。

1 アンケートの方法

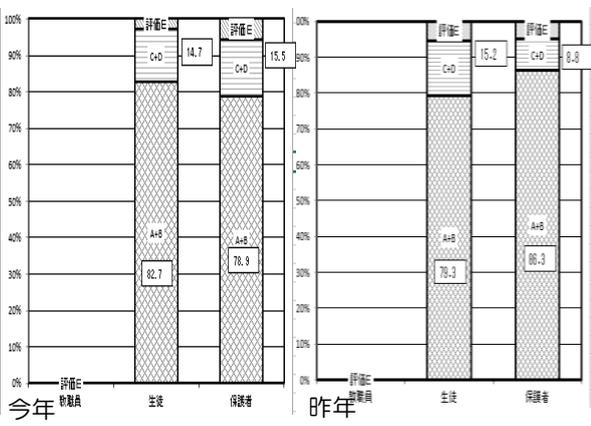
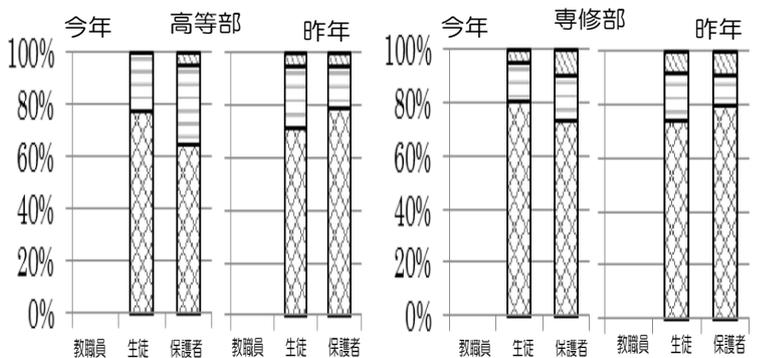
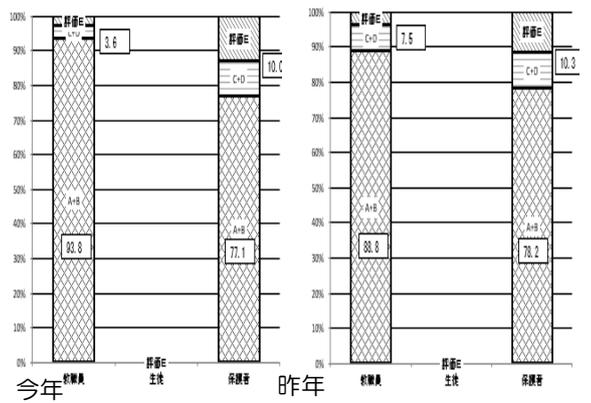
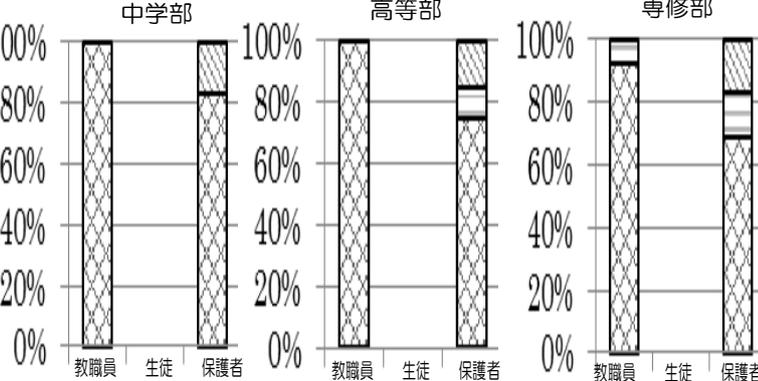
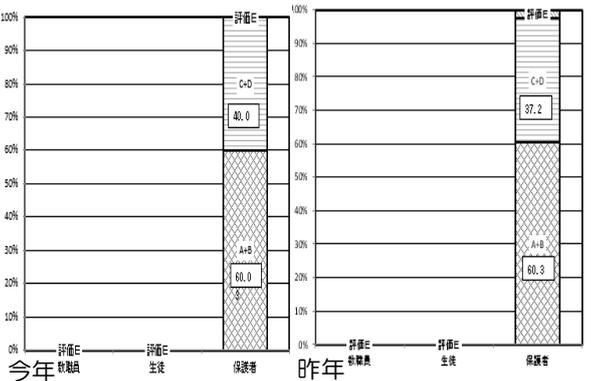
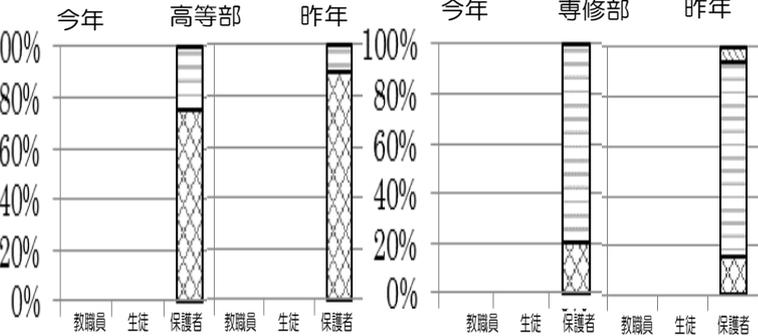
「保護者・保証人用」、「児童・生徒・学生用」（小学部児童用、中学部生徒用、高等部生徒用、専修部学生用）、「教職員用」という質問用紙を、平成 27 年 10 月に配付して実施しました。回収率は、教職員が 86%、保護者・保証人が 74%、児童・生徒・学生が 73%でした。（前回、教職員 79%、保護者・保証人 84%、児童・生徒・学生 83%）

2 評価・集計方法

- i) 小学部児童は、質問に対し「はい、いいえ、わからない」で回答しました
- ii) その他は、質問に対し「とてもそう思う、すこしそう思う、あまりそうは思わない、まったくそうは思わない、わからない」で回答しました。
- iii) 「はい、とてもそう思う、すこしそう思う」を肯定的評価、「いいえ、あまりそうは思わない、まったくそうは思わない」を否定的評価として集計し、グラフで表示しました。

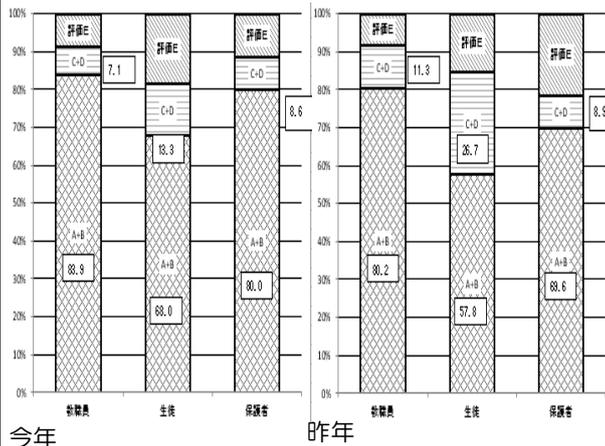
3 アンケート結果の考察と課題

*グラフの見方（下から）：A+B…満足・肯定的評価 C+D…不満・否定的評価 E…わからない

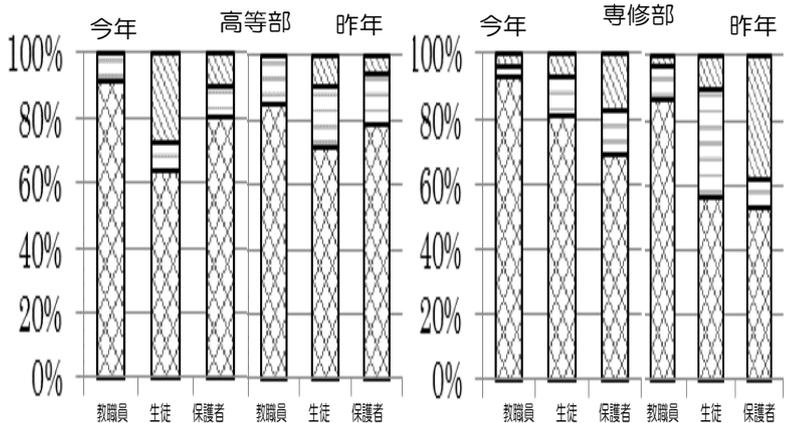
ID・カテゴリーと質問内容 学校全体の集計グラフ	分析コメント 特徴的な各部の集計グラフ
<p>1 学校 学校に行くのが楽しいかどうか。</p> 	<p>昨年度同様、児童、生徒、学生の大半が学校に行くことを楽しみにしており、保護者の結果にもそれが反映されていますが、今年度は保護者の肯定的評価が減り、否定的評価が増えました。</p> 
<p>【課題・反省等】肯定的評価は小中の生徒、保護者は、100%、専修部学生も増えています。否定的評価が高の生徒は2割弱、保護者は昨年から増えて3割あります。高についてはこの結果を検討するとともに、学校全体としては楽しく学べる環境を整えたいと思います。</p>	
<p>2 保護者との連携 学校による情報の周知徹底</p> 	<p>昨年同様、肯定的評価が教職員は若干増えたにもかかわらず、保護者が若干減ったので両者の差が少し広がりました。</p> 
<p>【課題・反省等】高等部、専修部の保護者の肯定的評価が8割に届いていません。すべての保護者に情報を周知できるよう取り組みを進め、教職員との差が縮まるようにしていきます。</p>	
<p>3 保護者との連携 保護者の学校行事の参加</p> 	<p>昨年度と同じ結果が出ています。幼小中の保護者は100%です。専修部の保護者の参加は少し増えましたが、高の保護者は少し減りました。</p> 
<p>【課題・反省等】専修部は成人の学生が多いので、毎回このような結果になりますが、学校としてはさらに、開かれた学校づくりのための取り組みを行っていきます。</p>	

4 進路

一人ひとりに応じた進路指導



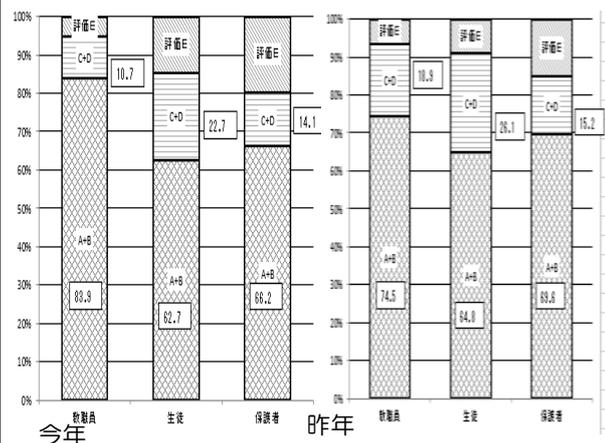
昨年度と比較すると生徒、保護者の肯定的評価が1割ほど増えています。生徒の否定的評価、保護者のわからないが1割ほど減っています。



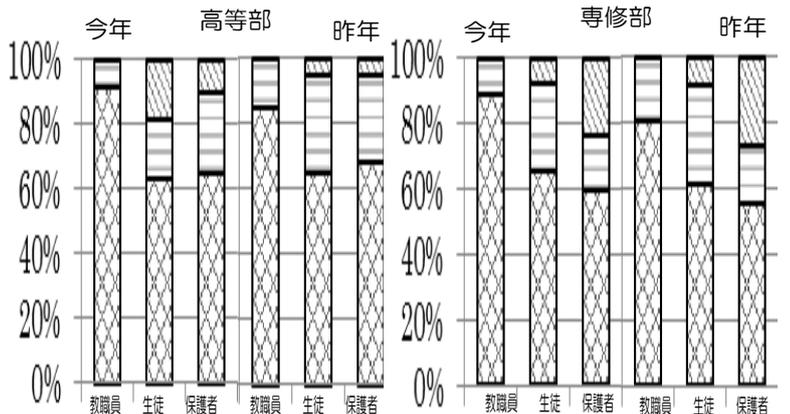
【課題・反省等】昨年度と比較すると、専修部で学生、保護者の肯定的評価が大きく増えて、教職員、生徒の否定的評価が減っています。各部ごと、また個々人でニーズの異なる進路指導ですが、担任、分掌が連携を密にして情報提供を行うなど、きめ細かな進路指導の取り組みを行っていきます。

5 生徒・学生指導

悩みを相談できるシステムの有無や相談できる教職員の有無



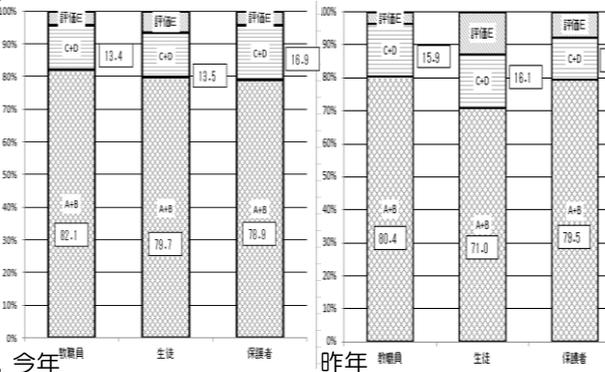
生徒の肯定的評価は6割を超えて、昨年とほぼ同じ結果です。ただ否定的評価は少し減りました。高等部、専修部で否定的評価が減ったのが原因と考えられます。



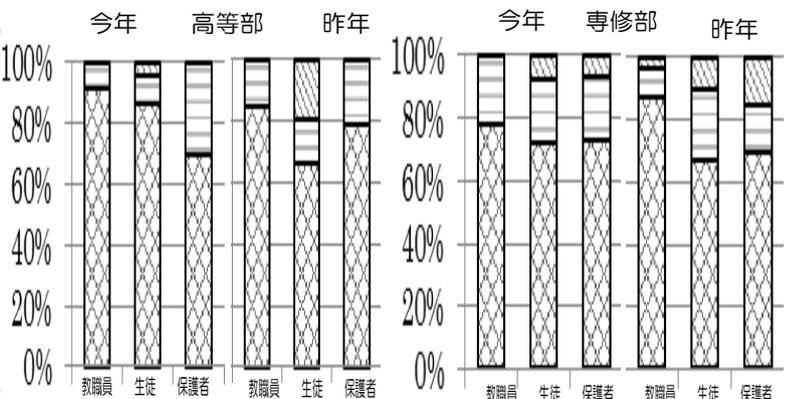
【課題・反省等】教職員には相談できるシステムの有無、生徒には相談できる先生の有無を質問しました。専修部では肯定的評価が昨年より増えました。今後も校内に気軽に相談できる雰囲気をつくり、校内の相談システムの周知徹底にも努めていきます。

6 児童・生徒理解

教職員の幼児、児童、生徒、学生の障がいについての理解



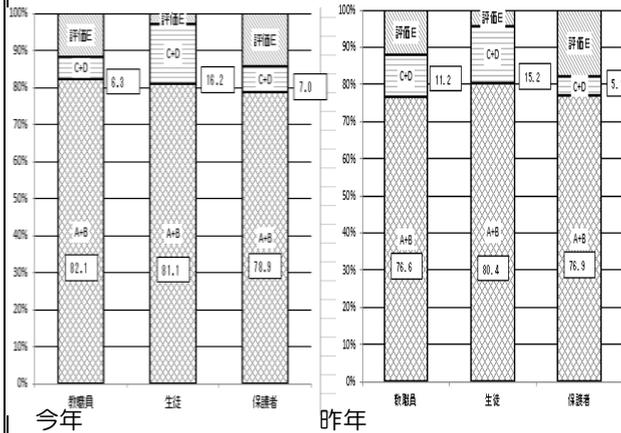
昨年度と比較すると、教職員、保護者はほぼ同じですが、生徒の肯定的評価が増えています。



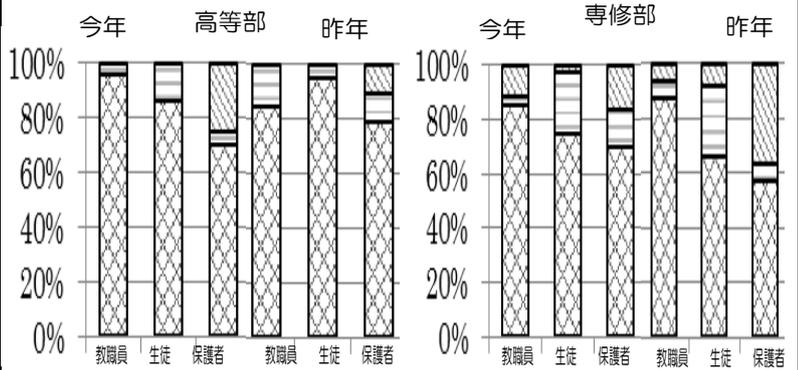
【課題・反省等】生徒の肯定的評価が増えたのは、高等部と専修部の肯定的評価が増えたのが理由です。これからも研修会などさまざまな機会を通して、在校生の障がいについて理解を深めていくと同時に、さらに各部の連携を密にして、幼児、児童、生徒、学生の情報の共有化を図っていきます。

7 授業

わかりやすい授業の実施



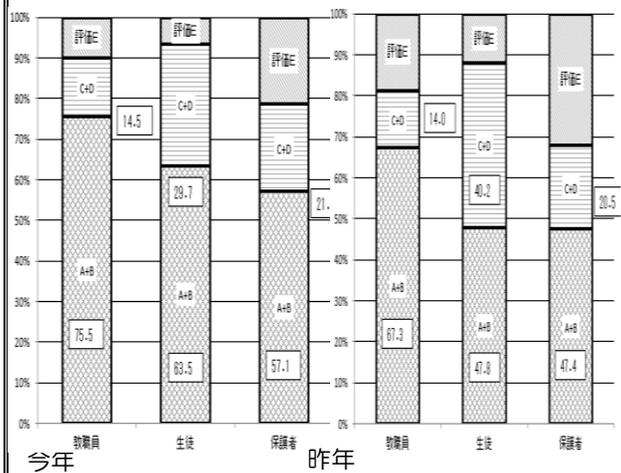
昨年度と比較すると、ほぼ同じ結果が出ています。教職員の肯定的評価が増え、3者とも8割の肯定的評価があります。専修部では、学生の肯定的評価が増えましたが、高等部では否定的評価が増えました。



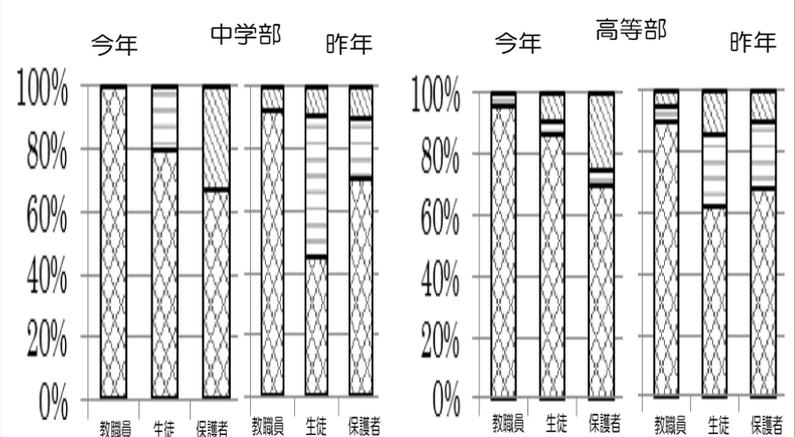
【課題・反省等】この結果や自由筆記の内容も参考にして、今後とも地道に学習会や研修など様々な機会を通して、教職員のスキルアップを図っていきます。

8 授業

ICTを活用した教育の取り組み



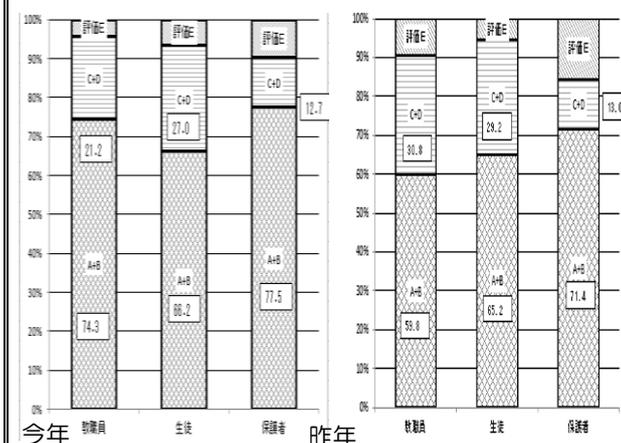
昨年度と比較すると1割ほど3者とも肯定的評価が増え、否定的評価が減っています。専修部の学生には否定的評価が5割ありますが、肯定的評価も少し増えています。



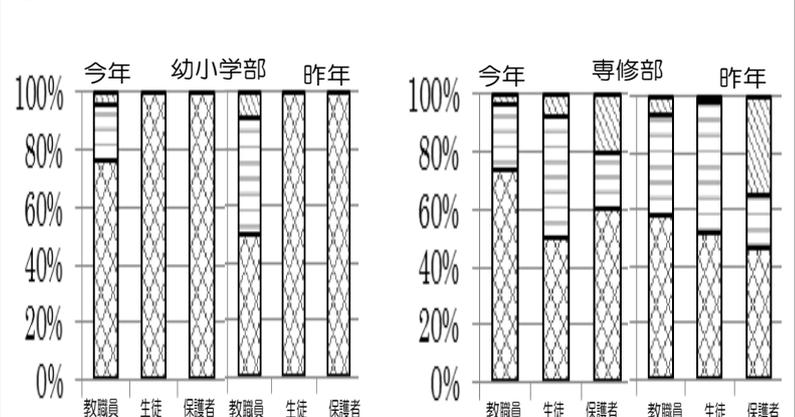
【課題・反省等】昨年度の肯定的評価が低かった中学部、高等部の生徒の評価が上がりました。昨年の結果を踏まえて、各部ともICT機器を授業に取り入れる取り組みを進め、高等部では全盲生徒にiPadの使い方を指導するなどした結果が表れていると考えます。今後さらにICTを視覚障がい教育に活用できるよう教職員の研修や機器の整備を行っていきます。

9 人権

幼児、児童、生徒、学生に対する積極的な人権教育の推進



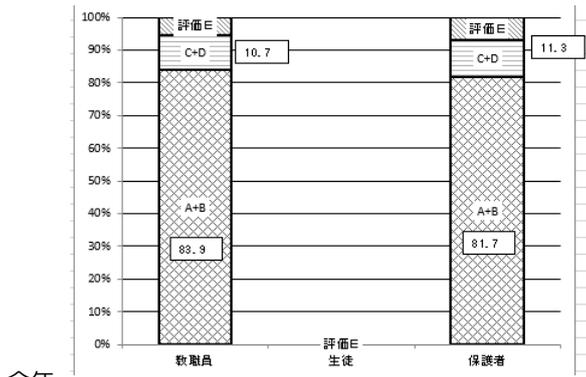
昨年度と比較すると3者とも肯定的評価が増えています。特に教職員の肯定的評価が増え、否定的評価が減りました。小学部、高等部、専修部の肯定的評価が増えたのが理由と考えられます。



【課題・反省等】各部で人権について考える機会を設け、職員についても全校、各部で研修会を行っています。今後ともこうした取り組みを充実させて、生徒の肯定的評価が増えるよう努めていきます。

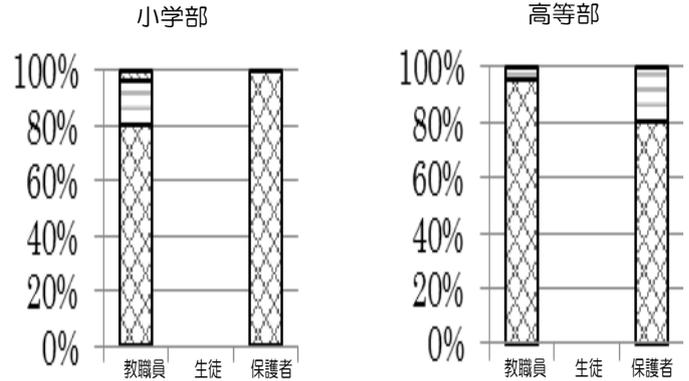
10 人権

日常の教育活動における幼児、児童、生徒の人権の尊重



今年

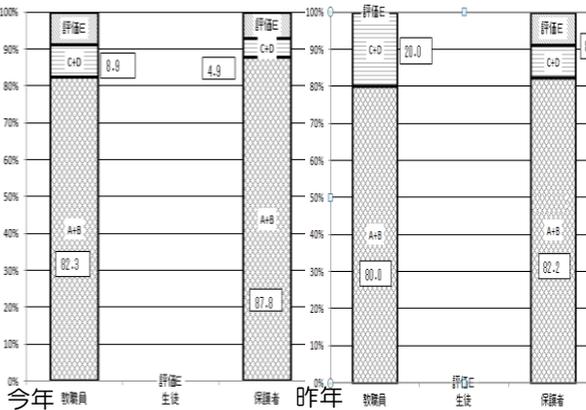
肯定的評価が教職員、保護者とも8割を超えています。幼小小学部の教職員の2割弱、高等部の保護者の2割が否定的評価です。



【課題・反省等】今年、初めて実施した質問です。教職員、保護者とも8割以上が、人権が尊重された教育活動が行われていると評価しています。しかし、否定的評価も小学部の教職員に2割弱、高等部の保護者に2割あるので、こうした評価が少なくなるよう、さらに人権を尊重した教育に取り組みます。

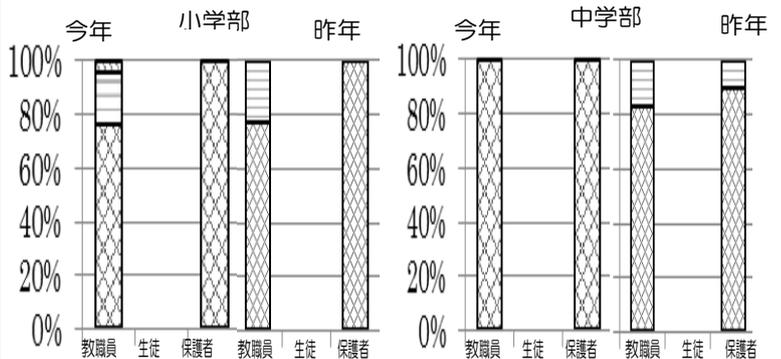
11 教育課程

幼児、児童、生徒の実態に応じた教育課程の編成



今年

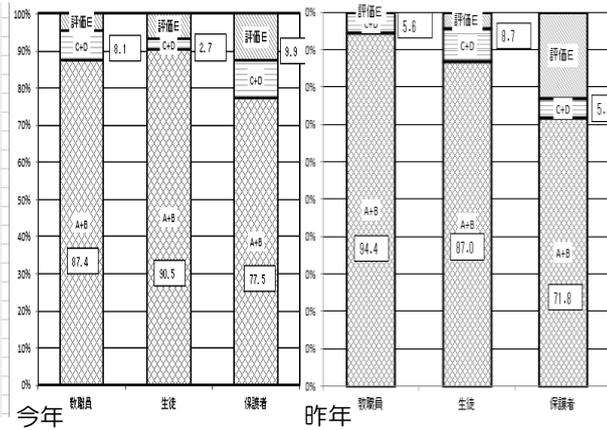
昨年度と比較すると、教職員、保護者とも肯定的評価が増え、否定的評価が減っています。幼小小学部では教職員に否定的評価が2割あります。



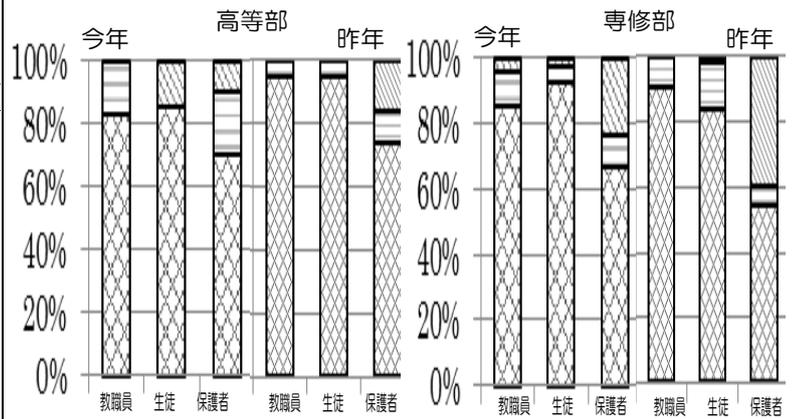
【課題・反省等】中学部は、今年教職員、保護者とも肯定的評価が100%になりました。各部ともいろいろ意見を出し合い、幼児、児童、生徒の実態に合った教育課程を作り上げていきます。

12 学校安全

地震や火災など非常時の対応方法が適切に教えられているか



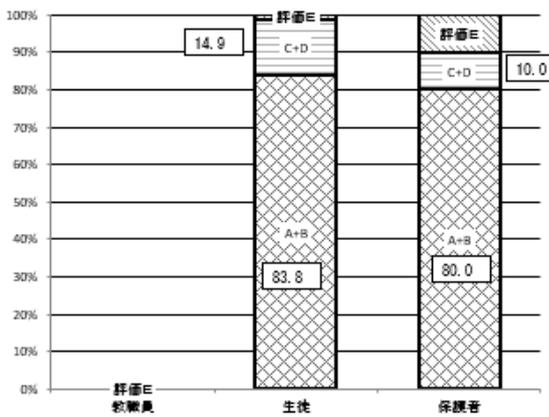
昨年と比較すると、生徒、保護者の肯定的評価は増えましたが、教職員は否定的評価が微増で肯定的評価は減りました。高、専の教職員の肯定的評価が減ったのが理由と考えられます。



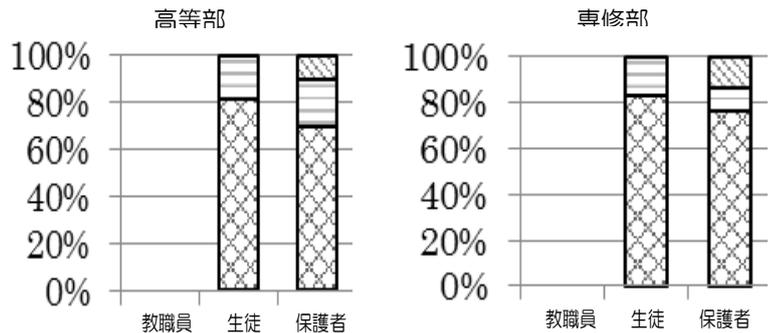
【課題・反省等】学校では定期的に火災、地震、不審者に対する避難訓練を実施しており、そうした取り組みが定着してきていますが、その内容が実際の緊急事態に対応していないとの指摘もあります。今後ともあらゆるケースを想定して、実際に起きたときに教職員、生徒とも適切な行動がとれるよう訓練内容を検討していきます。

13 学校安全

新校舎での学校生活の満足度



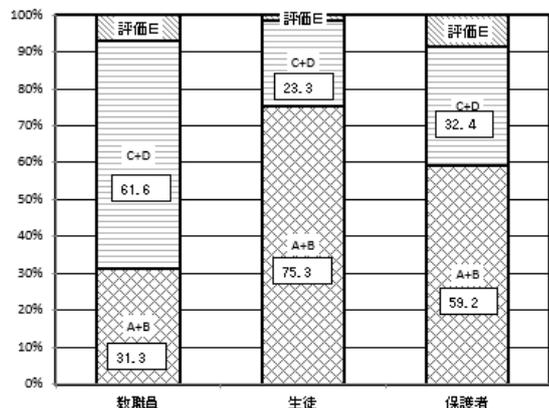
2 学期から完成した新校舎での学校生活が始まり、生徒、保護者にその満足度について質問しました。生徒、保護者とも肯定的評価は8割を超えています。高、専の生徒に約2割の否定的評価があります。



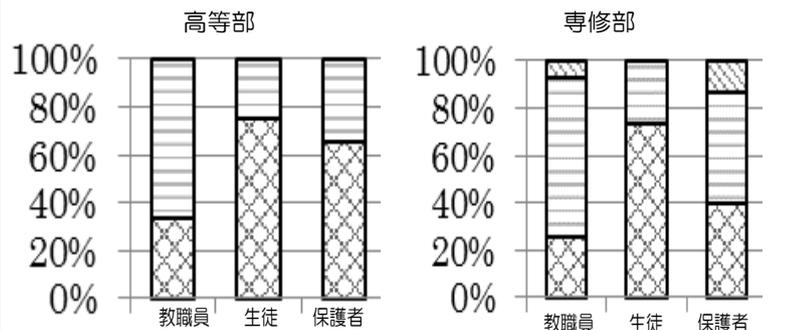
【課題・反省等】8月下旬から全面的に新しい校舎に移ってきましたので、校舎の構造等をよく理解することなどについては、まだまだ戸惑いがあると思われます。少しずつ新校舎に慣れていただき、この校舎でできることを考え、特に、これまでと違った活動を行うことにもチャレンジしながら学校生活の満足度をあげていきたいと考えています。

14 学校安全

新校舎は視覚障がい者にとって使いやすい、配慮された設計、設備になっているか



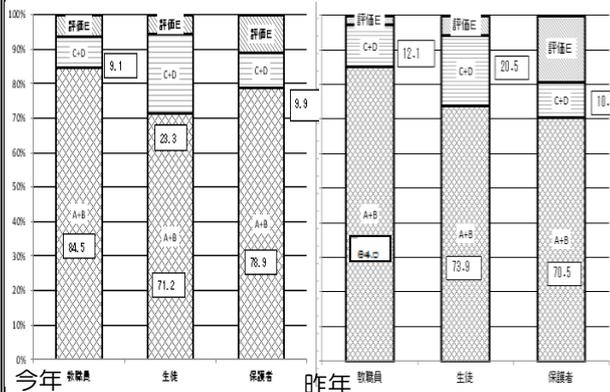
否定的評価が教職員に6割、保護者に3割あります。教職員は各部とも否定的評価が肯定的評価を上回り、中、高、専の否定的評価は約7割です。生徒の否定的評価は高、専で2割から2割5分強、専修部の保護者も否定的評価が肯定的評価を上回りました。



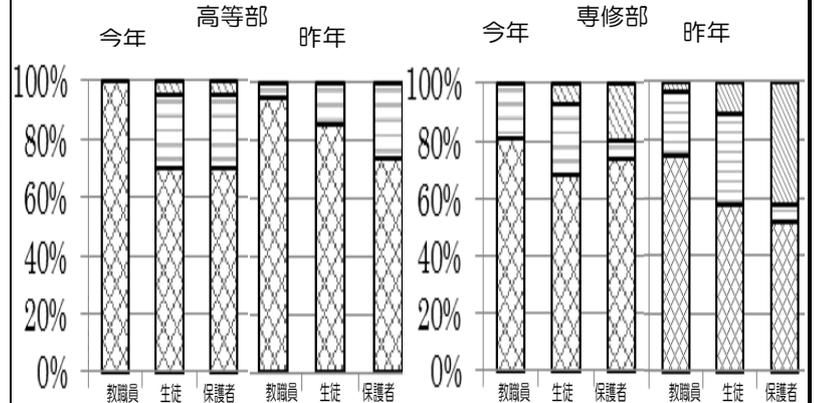
【課題・反省等】学校としては、設計段階から府教育委員会に視覚障がいのある幼児・児童・生徒・学生の安全面を第一に要望をあげ、改善等をお願いしてきたところですが、限られた予算、現地建替えという状況からすべてを要望どおりにすることにはなりません。今後も、幼児・児童・生徒・学生、保護者・保証人からのご意見をお聞きし、教職員が指導の際に気付いたことをまとめながら、絶対に改善が必要なもの、教員の指導により対応できるものを見分け、安全面を第一に優先順位をつけ改善に取り組んでいきたいと思っています。

15 学校行事

スポーツフェスティバルや文化祭など学校行事が楽しいかどうか



昨年度と比較すると、ほぼ同じ結果が出ていますが、保護者の肯定的評価が増えています。高、専の生徒では2割5分が否定的評価です。



【課題・反省等】来年度は5年ぶりにグラウンドでスポーツフェスティバルが行われます。こうした行事などで生徒が主体的に取り組み、一人一人が充実感を持てるような企画、運営を行います。専修部については昨年度に引き続き、自主的にスポフェスや文化祭に参加することができるようにしました。学生の感想なども聞きながら、今後の行事の企画に活かしていきます。

4 おわりに

今回の学校教育自己診断で明らかになった個々の課題については、次年度以降も各学部、各分掌で改善に向けての取り組みを続けていきます。